

踏 み 跡 < My mountains >

上越	蓬峠から白毛門三山(白毛門・笠・朝日)	No.087
----	---------------------	--------

昭和42年6月14日

休日出勤の代休を利用しての山旅。馴染みの夜行列車22時03分発は帰宅する通勤客でいっぱい。磁石を忘れてきたのに気がつき、ドキリ。気がつくのが遅かった、もう手遅れ、無事を祈るしかない。発車してしばらく文庫本(堀辰雄だったか?)を読んでいたが、そのうちに眠くなってきた。

昭和42年6月15日

水上で目が覚めた。不思議なことに、いつもここで目が覚める。

沼田で尾瀬へ行くと思しきグループが下車すると車内はがら。さらに土合で30人ほどが下車。

2時50分、トンネルを抜けて土樽で四人の釣り師に混じって下車。

空には星がうっすらと輝き、カジカ・ヨタカの声聞きながら歩き出す。このBGMは闇の暗さをさらに深めるような音楽である。

万太郎沢の出合で二人、林道終点で二人、それぞれ釣り師たちは沢に入って行き独りぼっちになった。

露が一面に生えている草原を過ぎて、ヘッドランプの光がなくても歩けるぐらいの明るさになったところで、流れに腰を下ろして朝食(4時05分~4時50分)。耳を傾けると瀬音に混じって「ショウチュウイッパイグイー」とセンダイムシクイの特徴的な鳴き声。

蓬峠6時20分(1520m)、肌寒いしガスで何も見えない。

池塘に蛙の卵があり、近くの草陰から雄と雌の輪唱が聞こえてくる。コイワカガミはもう花を開いているが、コバイケイソウはまだ蕾が硬い。(右写真:蓬峠から谷川岳方面)

谷間から届くウグイスやホトトギスの声聞きながら歩きやすい登山道を歩き、セツ小屋山(1675m)7時20分。

清水峠(1440m)7時55分。快晴と言い切れるような青空に茂倉岳、武能岳も姿を現してきた。

ジャンクションピーク(1940m)9時25分。その名のとおり上越国境の山と越後の山を結ぶ所。大烏帽子岳



のトンガリが目前に迫り、その向こうに巻機山も手に取れそうな近さ。尾根上にはわずかに切り開きが入れられている。雪の量は昨年より少々少ないように見える。

朝日岳(1945m)9時40分。朝日ヶ原で食事。シャクナゲのほかにハクサンコザクラが一面に咲き乱れ足の踏み場もない状態。雪溪か



谷川岳 一ノ倉岳 三ノ倉沢 幽ノ沢 茂倉岳 武能岳 蓬峠 白毛門 七ツ小屋山

ら出てくる水は音を立てて谷間に向かって流れ落ちていく。

奥利根水源の山々がずらりと並び、尾瀬の山、上州武尊、魚沼の山々、守門、浅草、御神楽……。なんといいかわからないような大パノラマ。

(上写真はパノラマの一部)

11時25分出発、笠ヶ岳に向かうと、今度は足元に満開のチングルマ。石楠花の後ろに谷川岳東面の黒々とした岩場。マチガ沢、一ノ倉沢、幽ノ沢、芝倉沢と並ぶ険悪な岩の連なる沢。「谷川岳



踏み跡 < My mountains >

を眺めるならここしかない!!」と言われるにふさわしい素晴らしい眺め。

(前ページ右下写真:朝日岳から眺める谷川岳方面)

笠ヶ岳(1852m)12時05分、谷川岳東面の眺めが素晴らしい。雪をたっぷり付けた苗場山もまたしかり。笠ヶ岳を下りながら振り返ると、ハクサンコザクラと白い雪の優しい朝日岳も逞しい岩肌をこちらに向けるようになり、横に見えていた巻機山方面の山々も徐々に見え隠れするようになってきた。

白毛門(1720m)12時45分、頂上に立つと谷川連峰はさらに間近に迫り威圧感さえ感じさせる。白毛門



を下ってしまうと奥利根の山はもう見えなくなってしまう。「アディオス・シエラ・オクトネ アディオス・ムチャーチョス」(左写真:白毛門から谷川連峰と険悪な沢筋)

13時出発。

ツツドリ、セミ、ウグイスの声に混じって白毛門沢の滝の怒涛が聞こえてくるようになると、もう下界は近い。

東黒沢14時05分、沢を渡る途中で顔を洗って10分間ひと休み。土合駅に14時35分に到着。

一ノ倉沢の遭難の遺体を下ろすとかで駅の周辺は人の

動きが多い。遺族らしい正装の老夫婦を乗せたタクシーが湯檜曾川沿いに上っていった。

笠ヶ岳の堂々たる姿は、まるでそんなことには頓着ないかのように不動で、人間世界の様々な出来事と山の動かざる貫禄とを見比べると何だか複雑な気持ちでした。

腹が減ってしまったが、ここにはこれしかない。電車を待つ間に、駅前のまずいラーメンを食べて腹を治めて、15時22分発の上野行に乗車。

以上



(修正・更新:2023年11月)